



## 公共工事コスト縮減対策の取組み状況

### 第2次行動計画(新行動計画)の目標を達成

昨今の厳しい財政事情の下で、限られた財源を有効に活用し、県民の快適で安全な生活環境の形成に資する社会資本の整備を着実に進めるため、本県では、「公共工事コスト縮減対策岩手県新行動計画(第2次行動計画)」(平成13年10月)に基づき、コスト縮減対策に取り組んできました。

第2次行動計画では、平成17年度までに公共工事のコストを平成8年度の標準的な工事コストと比較して10%縮減することを目標としていました。

このほど、平成17年度の公共工事コスト縮減対策の実績をとりまとめた結果、コスト縮減率は11.1%(コスト縮減額：93億円)となり、平成17年度でのコスト縮減目標(縮減率10%)を達成しました。

平成18年度は、「公共工事コスト縮減対策岩手県第3次行動計画」(計画期間 H18～H22)に基づき、より一層公共工事のコスト縮減対策に努めます。

記

#### 1 「公共工事コスト縮減対策岩手県新行動計画(第2次行動計画)」の概要

(1) 計画期間：平成13年度～平成17年度

(2) 縮減目標：平成8年度の標準的な工事コストと比較して、平成17年度でのコスト縮減達成目標を縮減率10%とする。

(3) 基本的視点

① 工事コストの低減

② 工事の時間的コストの低減

③ ライフサイクルコストの低減

ライフサイクルコスト：構造物の計画、設計から建設、維持・管理、解体撤去、廃棄にいたる費用のこと。

④ 工事における社会的コストの低減

(リサイクルの推進、工事における環境負荷の低減、工事中の安全対策など)

⑤ 工事の効率性向上による長期的コストの低減

#### 2 平成17年度のコスト縮減実績について

|     |                | 農林水産部 | 県土整備部 | 計     |
|-----|----------------|-------|-------|-------|
| H17 | 対象工事費(億円) ①    | 239.3 | 504.0 | 743.3 |
|     | 縮減額(億円) ②      | 35.6  | 57.4  | 93.0  |
|     | 縮減率(%) ②/(①+②) | 13.0  | 10.2  | 11.1  |
| H16 | 縮減率(%)         | 12.5  | 8.6   | 9.8   |
| H15 | 縮減率(%)         | 7.6   | 7.3   | 7.4   |
| H14 | 縮減率(%)         | 6.8   | 6.0   | 6.3   |
| H13 | 縮減率(%)         | 7.0   | 6.0   | 6.4   |

※平成13～17年度における公共工事のコスト縮減対策の実績は、農林水産部と県土整備部が所管する工事を対象としている。

## 平成17年度のコスト縮減対策の主な事例

### 1 計画手法の見直し

- 交通量や農作業等の状況に応じて、農道の計画幅員を縮小し、工事費を縮減した。
- 周辺の他事業（ほ場整備と道路改良等）と連携して効率的に工事を進め、工事費を縮減した。
- 側溝、ガードレール等の既存施設を有効に利用できるよう計画を見直し、工事費を縮減した。
- 災害により倒壊した漁港構造物に藻場パネルを取り付け、漁場施設として有効に利用し、材料費を縮減した。
- 視距の改良や待避所の設置を効果的に組み合わせ、地域の実情に合った道路整備を行い、工事費を縮減した。

### 2 技術基準等の見直し

- パイプラインの埋設深さを浅くし、工事費を縮減した。
- 路盤構成、凍上防止工の見直しを行い、工事費を縮減した。
- 林道の技術基準の改正（カーブ拡幅量、ステップ幅の縮小）により土工量等を減らし、工事費を縮減した。
- 防波堤の堤体下面に摩擦増大マットを設置することにより、堤体の規模を縮小し、工事費を縮減した。
- 消波ブロック等に用いる生コンクリートの規格を改定し、ブロックの製作費を縮減した。

### 3 設計方法の見直し

- 農業農村整備において、岩手らしい整備手法・整備基準を定め、アスファルト舗装の摩耗層の廃止等により工事費の縮減を行った。
- 木製土留工等の木材利用工法を採用し、工事費を縮減した。
- 大型船の利用状況に応じて、岸壁・物揚場前面基礎部の洗掘防止対策を取り止め、工事費を縮減した。
- 橋の設計において、上部構造の軽量化を図り、工事費を縮減した。

### 4 技術開発

- 暗渠排水工に、疎水材（もみ殻等）の設置と排水管の埋設を同時に行うドレンレイヤー工法を採用し、施工の省力化を図り、工事費を縮減した。
- 軽量で組立てが容易な鋼製擁壁を採用し、施工の省力化を図り、工事費を縮減した。
- 歩車道境界ブロックと側溝蓋が一体となった製品を使用することにより、施工の省力化を図り、工事費を縮減した。
- 高エネルギー吸収型の落石防護工を採用することにより、落石防護施設の規模を縮小し、工事費を縮減した。

### 5 建設副産物対策

- 再生アスファルトや再生砕石を使用して、材料費を縮減した。
- 現場で発生した残土を近傍の工事へ有効利用し、運搬費等を縮減した。
- トンネル工事で発生した岩塊を、漁場施設の捨石材料として再利用し、材料費を縮減した。

### 6 ライフサイクルコストの低減

- 切土法面の法尻を丸太で覆い、植物の繁茂を抑制し、草刈り等の維持管理費を縮減した。
- 橋桁材に耐候性鋼材を使用し、塗り替え等の維持管理費を縮減した。